

大阪観光市場：7月は持ち直し、過去水準との差は続く

EXECUTIVE SUMMARY

● 7月は、前年比の落ち込みが6月より縮小した。

大阪の延べ宿泊者数は410.3万人泊、2025年7月比14.9%減。全国との差は6月15.4ポイントから7月10.2ポイントへ縮小した。

稼働率も72.6%へ戻ったが、前月比には季節性があるため、単月の改善だけで回復の定着とは判断しない。

● 万博前の2024年と比べると、弱さは残る。

7月の大阪は2024年比18.1%減で、全国の5.7%減より12.4ポイント弱い。

1～7月累計も大阪12.2%減、全国3.7%減。2024年比の相対差は縮まっていない。

● 前年からの減少は、国内泊が中心。

1～7月の減少544.0万人泊の64.3%は国内泊で、7月単月も国内18.1%減、外国人10.5%減だった。

一方、7月の外国人泊は2024年比25.7%減。比較年を分け、中国市場だけで全体を説明しない。

● 来阪客と宿泊量は、同じ期間で比較する。

既存の1～6月来阪外客推計は7.7%減、同期間の延べ宿泊者数は16.4%減で、差は8.7ポイントだった。

この比較を7月へ延長するには来阪客側も7月までそろえる必要がある。7月の宿泊改善から転換率の回復までは断定しない。

大阪 延べ宿泊者数（2026年7月）

4, 102, 650

2024年7月 5, 010, 420

2025年7月 4, 822, 850

24年比 -18. 1%

25年比 -14. 9%

大阪 延べ宿泊者数（1-7月）

28, 231, 150

大阪24年比 -12. 2%

全国24年比 -3. 7%

24年差（pt） -8. 56

大阪25年比 -16. 2%

客室稼働率（2026年7月）

72. 6%

2024年7月 75. 2%

2025年7月 74. 9%

24年差（pt） -2. 6

25年差（pt） -2. 3

中国線旅客（前年同月比）

37%

外国人旅客 79%

国際線旅客 84%

前年比は改善したが、2024年比の全国との差は残る

2026年7月の大阪は410. 3万人泊で、2025年7月比14. 9%減。全国は4. 7%減で、大阪の落ち込みは10. 2ポイント深い。6月の差15. 4ポイントからは縮小した。

2024年7月比では大阪18. 1%減、全国5. 7%減で、相対差12. 4ポイントは6月の12. 5ポイントとほぼ変わらない。

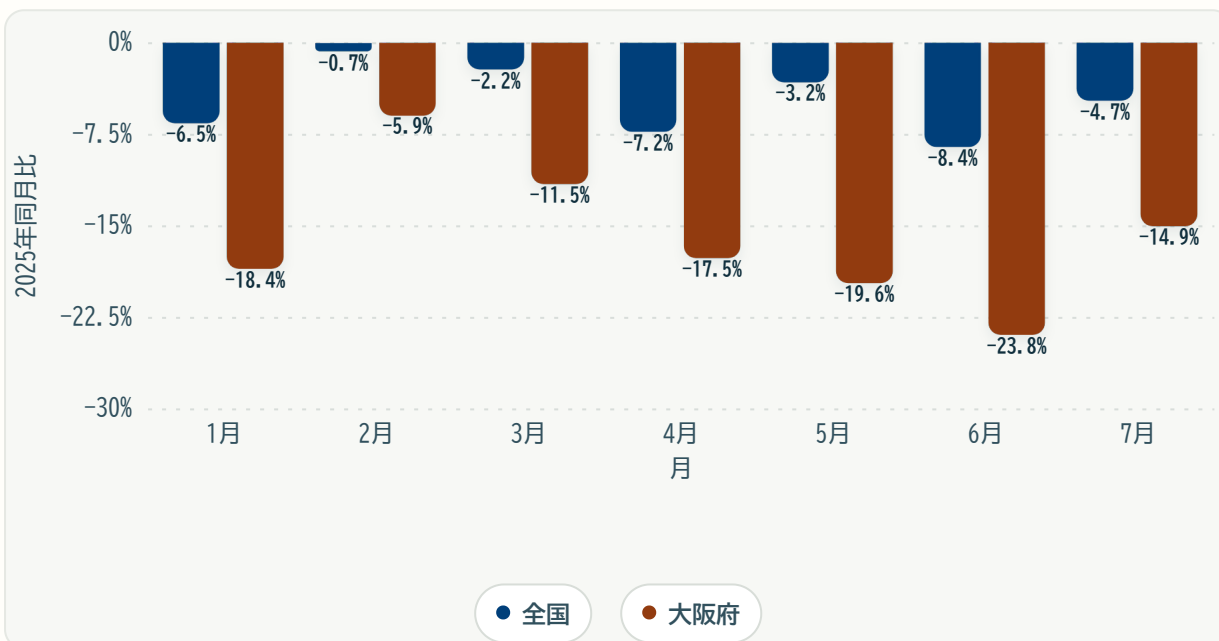
1～7月累計は大阪2, 823. 1万人泊で、2024年比12. 2%減、2025年比16. 2%減。全国の2024年比3. 7%減に対し、差は8. 6ポイントとなった。

大阪の全国シェアは1～7月累計で2024年の8. 84%から2026年の8. 05%へ縮小。4～6月に広がった前年比の悪化幅は7月に縮んだが、1～7月の全月で大阪は全国を下回っている。

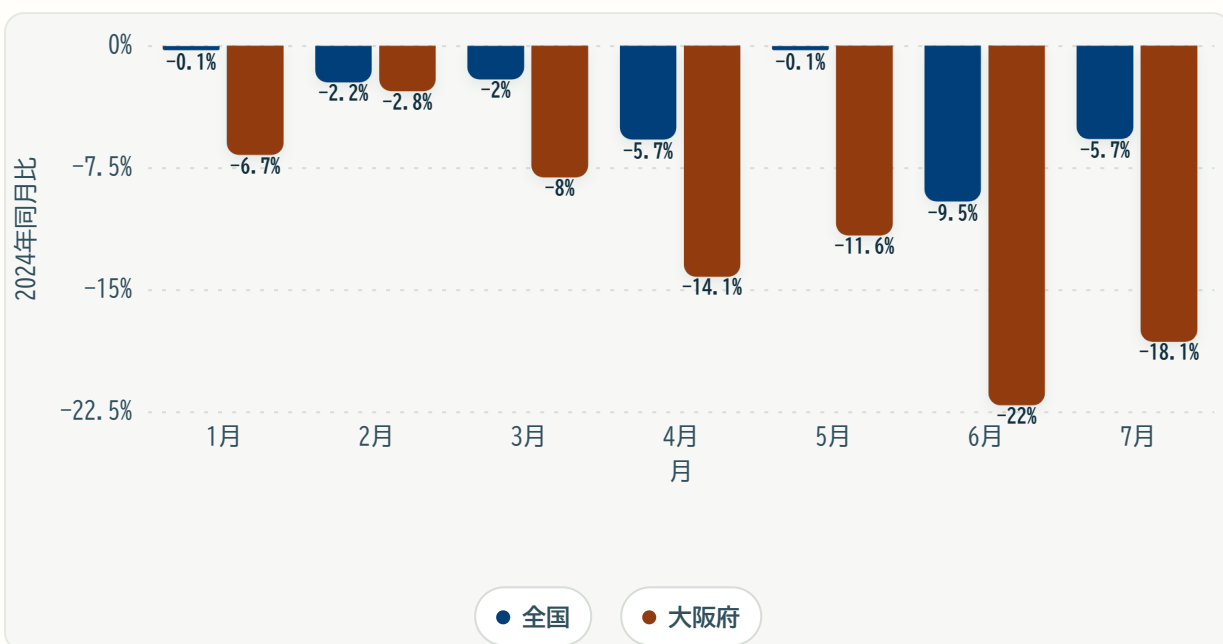
読み方：2026年の前年差は参考値。

2026年1月から調査の層化基準が従業者数から客室数へ変わった。公開資料には旧方式と新方式をつなぐブリッジ推計がないため、実需の変化と測定変更を完全には分離できない。

延べ宿泊者数の月別2025年比



延べ宿泊者数の月別2024年比



前年からの減少の64%は国内泊

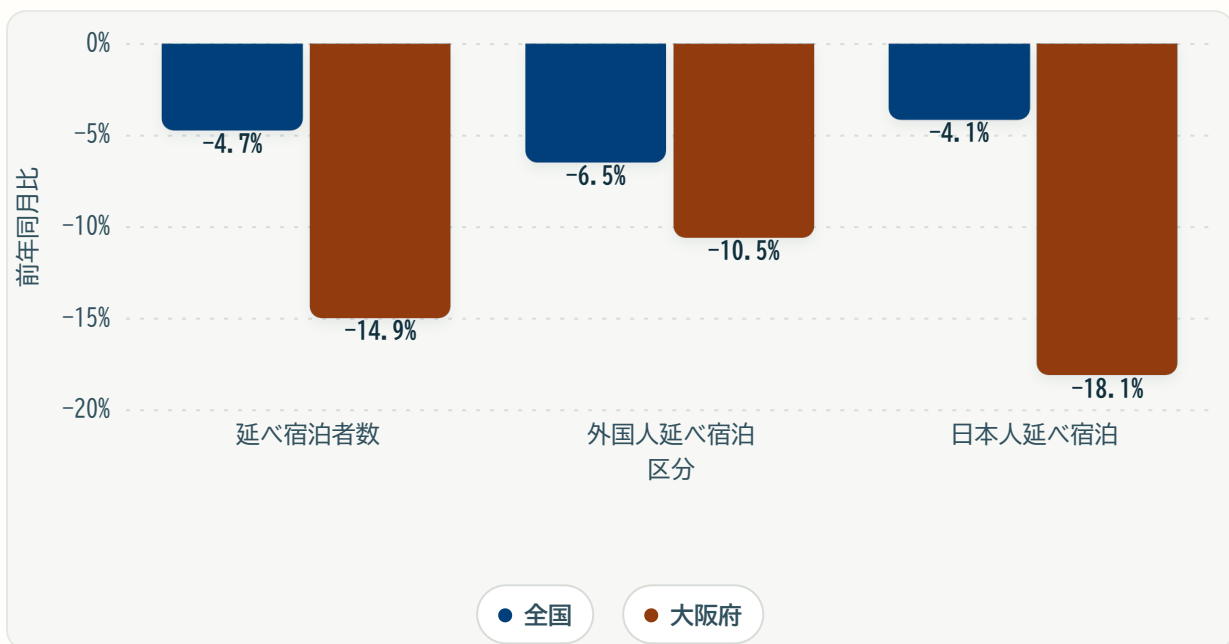
2026年1～7月に大阪で減った544.0万人泊のうち、国内宿泊の減少は349.6万人泊で64.3%を占める。

国内は18.6%減、外国人は13.0%減だった。

7月単月は国内18.1%減、外国人10.5%減。6月より下落幅は縮小したが、双方とも前年を下回る。

一方、2024年7月比では国内11.1%減、外国人25.7%減。万博年との比較で見える国内反動と、万博前との比較で見える外国人泊の弱さを分けて読む。

7月の国内・外国人別の前年差



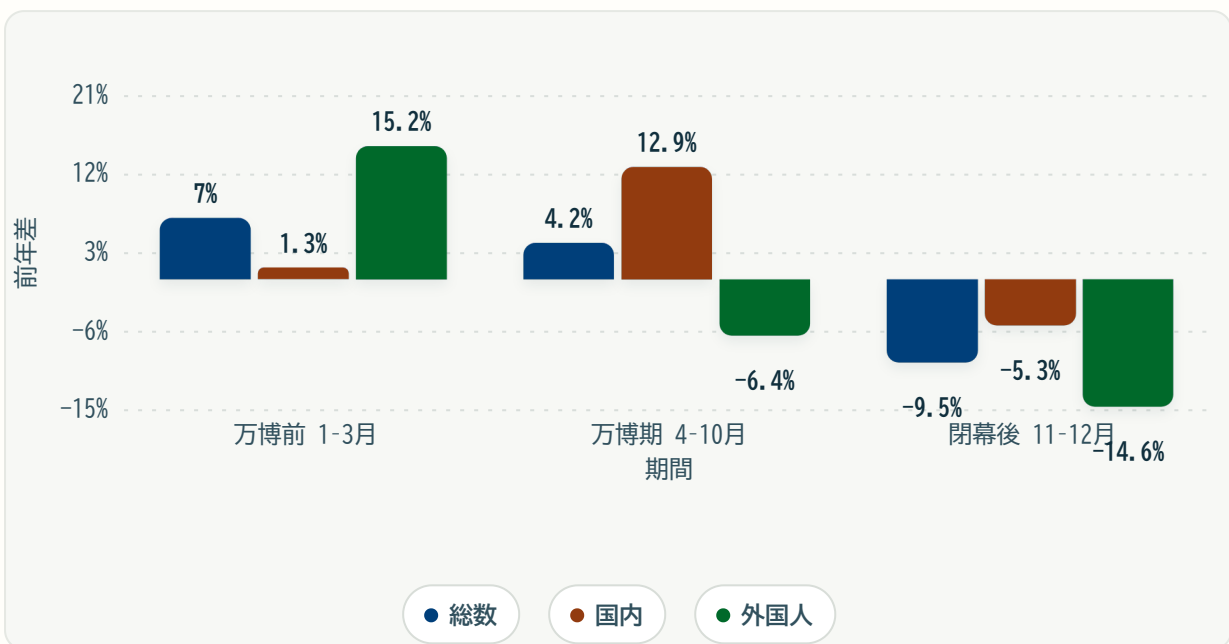
2025年の上振れは主に国内需要。7月の改善も反証材料にする

同じ調査設計で比べられる2025年対2024年を見ると、万博前の大阪は総宿泊7.0%増、万博期は4.2%増だった。万博期の内訳は国内12.9%増に対し、外国人は6.4%減。万博による高い比較基準は、主に国内需要側で作られた。

閉幕後の2025年11～12月は大阪の総宿泊が9.5%減へ転じ、全国の1.8%減より弱い。2026年1～3月も前年の万博開幕前から弱く、7月は2024年比18.1%減だった。

万博反動だけではこの差を説明し切れない。ただし7月は前年比の落ち込みと稼働率低下が6月より緩和した。継続的な悪化を前提にせず、改善が次月以降も続くかを確かめる。

万博前・会期・閉幕後の大阪宿泊前年差



補強材料：万博は国内需要型の比較基準を作った可能性が高い。

公式最終データでは2025年4月13日～10月13日の累計来場者は2,902万人、推計インバウンド比率は6.9%。

宿泊者数とは別指標で因果証明にはならないが、国内泊が伸びた宿泊統計の分解とは整合する。

中国ショックは3つの指標を分けて読む

全国の訪日外客数、来阪客推計、関空旅客は、母集団が異なる。政治要因の起点を確認したうえで、全国需要、大阪の市場構成、関空路線の順に見る。

起点 | 2025年11月の訪日回避注意喚起

中国文化観光部は2025年11月、日本側指導者の台湾関連発言などを挙げ、中国人旅行者へ訪日を避けるよう注意喚起した。これは需要抑制が政治的緊張と結び付いた公式な時系列上の起点である。

ただし、個々のキャンセルや減便がすべて政府の直接指示によるものとまでは断定しない。

1 | 全国：他市場が中国減を相殺（6月までの記録）

2026年上半期の中国からの訪日外客数は205.8万人で前年同期比56.4%減。6月単月も57.3%減だった。JNT0は中国政府の注意喚起と航空便減少を背景として挙げる。一方、6月は韓国・台湾・米国など15市場が同月過去最高で、全国総数は6.8%減にとどまった。

全国総数だけでは、中国ショックの強さが見えにくい。

2 | 大阪：露出は高く、他市場の相殺は6割（1～6月）

大阪観光局の推計では、2025年1～6月の中国客比率は大阪30.3%、全国21.9%。全国と同じ56.4%の中国減を当てると、総数への機械的な下押しは大阪17.1ポイント、全国12.4ポイントで、大阪のほうが約4.7ポイント大きい。

一方、来阪中国客は268.7万人から98.7万人へ減ったが、中国以外は617.6万人から719.6万人へ16.5%増え、中国減の60.0%を相殺した。来阪客総数は7.7%減で、全国の2.0%減より弱い。それでも訪問者総数の減少だけでは、同じ1～6月の宿泊市場の16.4%減を説明できない。

来阪外客数の中国・その他市場別推計



大阪 中国客比率

30.3%

全国 中国客比率 21.9%

露出差 +8.4%

粗い下押し差 (pt) -4.73

外国人宿泊比率

43.8%

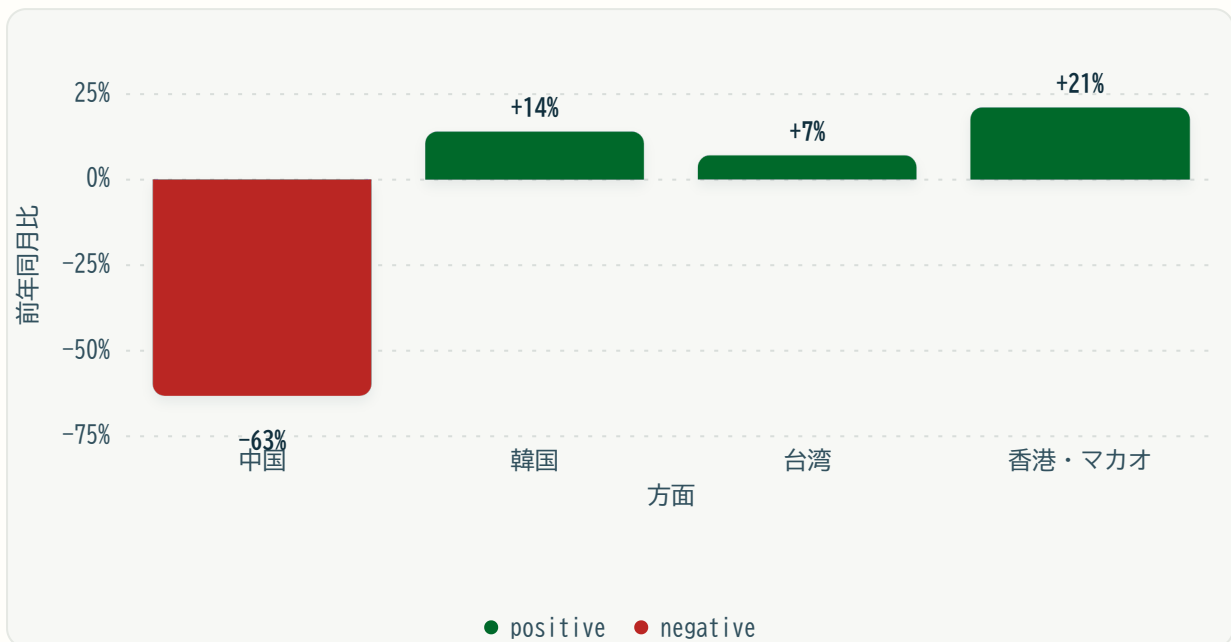
全国との差 +19.2%

3 | 関空：中国線の落ち込みが突出（6月の記録）

2026年6月の関空は外国人旅客が前年同月比79%、国際線旅客全体が84%で、ともに7か月連続の前年割れ。中国線は37%まで落ちた一方、韓国114%、台湾107%、香港・マカオ121%だった。

中国路線の急減が関西ゲートウェイを押し下げていることは強く確認できる。 ただし空港旅客には日本人や大阪以外を目的地とする利用者も含まれ、来阪客・宿泊者とは同一ではない。

関西空港の方面別国際線旅客前年差



診断から監視へ：次に見るのは、宿泊転換と価格・予約ペース。

他市場が来阪客数を補っている、国内需要、平均泊数、大阪訪問率、団体・個人構成、ホテル業態が変われば宿泊量と単価は弱くなる。ここからは悪化要因の追加ではなく、症状、回復リスク、先行指標、局所機会を順に見る。

稼働率は72.6%へ持ち直し、業態別には差がある

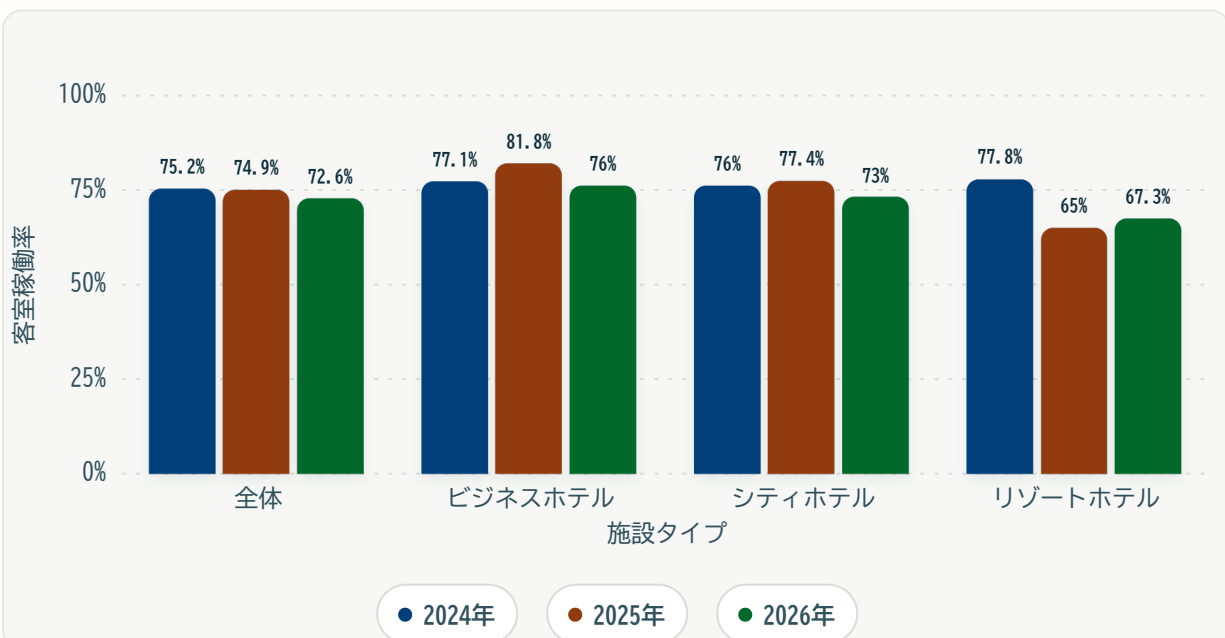
大阪の2026年7月稼働率は72.6%で全国2位。6月の65.3%から7.3ポイント上昇した。ただし季節性を含むため、前月差をそのまま基調回復とはみなさない。

2025年7月の74.9%を2.3ポイント、2024年7月の75.2%を2.6ポイント下回る。6月より過年度との差は縮まった。

シティホテル73.0%は前年比4.4ポイント低く、ビジネスホテル76.0%も5.8ポイント低い。一方、リゾートホテル67.3%は前年を2.3ポイント上回った。主要3業態が一様に悪化しているとの6月時点の見方は修正が必要だ。

旅館69.3%、簡易宿所57.2%、会社・団体の宿泊所51.6%。小規模区分の大きな変動は調査設計変更の影響も含みうるため、実需急増・急減とは断定しない。

大阪の施設タイプ別客室稼働率



増幅要因 | 供給増が、需要の弱さを稼働率・価格へ広げる

2024年3月末から2025年3月末に、大阪府の旅館・ホテル営業は1,576施設から1,646施設へ増えた。増加は70施設、4.4%だった。

客室数も123,056室から128,519室へ、5,463室増えた。大阪の客室増加率は4.4%で、全国の0.3%を約4.1ポイント上回る。

供給増は、延べ宿泊者数が減った原因ではない。 ただし、同じ需要をより多い客室で分けるため、需要が弱い局面では稼働率と価格競争を悪化させる増幅要因になる。

大阪 旅館・ホテル客室（2025年3月末）

128,519

2024年3月末 123,056

増加室数 +5,463

大阪増加率 +4.4%

全国増加率 +0.3%

大阪 旅館・ホテル営業施設（2025年3月末）

1,646

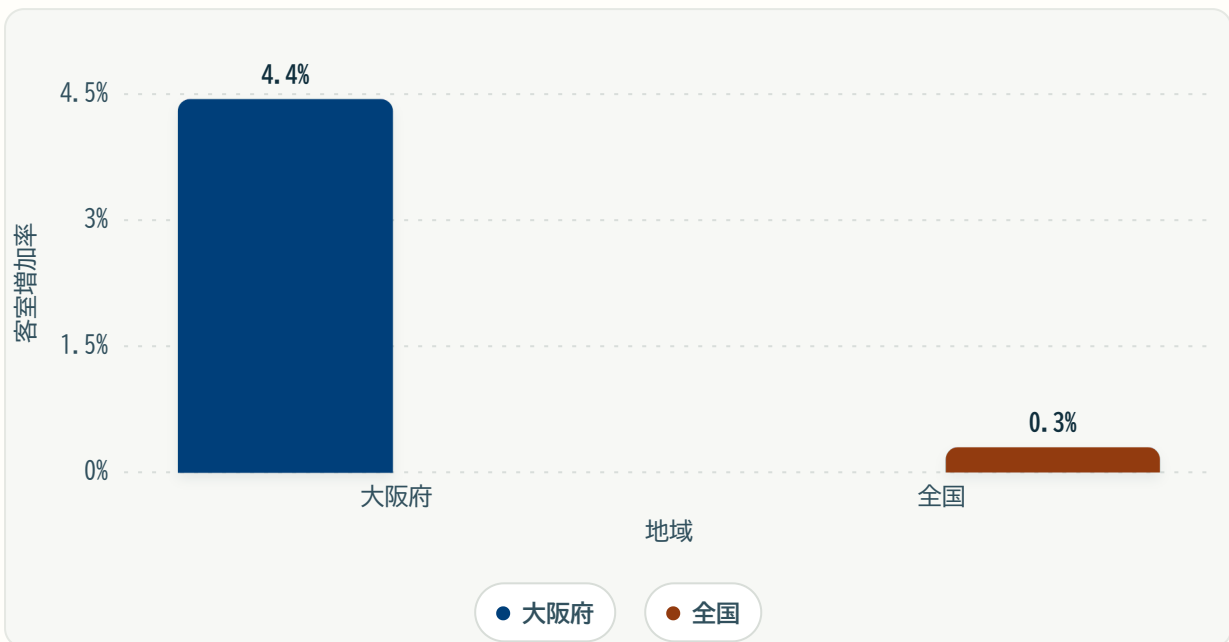
2024年3月末 1,576

増加施設数 +70

大阪増加率 +4.4%

全国増加率 +3.7%

旅館・ホテル客室数の増加率



読み方：許可ストックであり、販売可能在庫ではない。

厚生労働省『衛生行政報告例』の年度末施設数・客室数を使用した。

この客室数には簡易宿所・民泊を含めず、休業や販売停止も差し引いていない。

この図表は2025年3月末までの記録で、2026年7月の販売可能客室数を示すものではない。

航空コストの影響は、発券時点と宿泊時点を分けて検証する

参照資料では、JALの日本発東アジアの燃油サーチャージは2026年5～6月発券分で片道7,400円から14,200円へ上がった。これは過去の適用期間の記録で、10月現在の運賃を示すものではない。

宿泊予約・発券のリードタイムや航空券総額を確認できないため、7月の宿泊減を燃油高の結果とは断定しない。影響を判定するには同一旅程・同一条件の総額と予約時点をそろえる。

中国発旅程のサーチャージも期間を限定して読む

ANAの中国大陸発日本行きは、2026年4月発券分の片道275元（約6,600円）から5～8月発券分441元（約10,500円）へ60.4%上昇した。円換算は税関公示の1元＝23.87円（2026年7月12～18日適用）による概算。

これは燃油サーチャージ部分の確認値であり、販促や通常運賃を含む航空券総額が同率で上がったことを意味しない。

中国発サーチャージ（元）

441

円換算（概算）

10,500

4月分（元）

275

4月分・円換算（概算）

6,600

上昇率

+60.4%

来阪客との比較は、1～6月の同期間で維持する

既存の2026年1～6月来阪外客推計は前年同期比7.7%減だった。同じ2026年1～6月の大阪延べ宿泊者数は2024年比11.2%減、2025年比16.4%減で、前年同期比の差は8.7ポイントある。

6月単月でも来阪外客推計6.8%減に対して延べ宿泊者数23.8%減だった。ただし母集団が異なるため、この差だけで平均泊数や宿泊転換率の低下を直接計測したことにはならない。

今回の7月宿泊値を、1～6月の来阪推計と直接比較しない。来阪推計、国内・外国人泊、業態別稼働率、関空旅客を同じ月へそろえてから、7月の改善が来訪と宿泊の差を縮めたか再評価する。

大型イベントの記録を、個別日の販売判断に使う

以下は2026年7月16日時点に確認した日程の記録。7～12月の大型会場日数は91日で、9月17日、10月17日、11月22日だった。今回の宿泊統計更新ではイベント予定の再確認はしていない。

日程変更や中止がありうるため、今後の販売判断では各公式ページと最新予約ペースを再確認する。会場日数や収容人数だけで満員・宿泊需要の発生を見込まない。

大型会場日数（7-12月）

91

大型会場の確認済み稼働日数



主要イベント・ウォッチリスト

日程	イベント	会場	日数	会場上限目安	需要シグナル
2026/07/22-23	DOMOTO Concert 2026	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/08/01-02	SUPER BEAVER DOME TOUR	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/08/22-23	福山雅治 WE' RE BROS. TOUR	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/09/19-20	Stray Kids World Tour	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/09/22-23	BABYMONSTER WORLD TOUR	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/10/24-25	YOASOBI ASIA DOME & STADIUM TOUR	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/10/31-11/01	三代目 J SOUL BROTHERS STADIUM LIVE	ヤンマースタジアム長居	2	47,816	スタジアム2日
2026/11/07-08	SixTONES スタジアムツアー	ヤンマースタジアム長居	2	47,816	スタジアム2日
2026/11/14-15	INI DOME LIVE TOUR	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/11/20-21	MAMA AWARDS	京セラドーム大阪	2	55,000	国際K-POPアワード・ドーム2日
2026/11/27-29	BIGBANG 2026 WORLD TOUR	京セラドーム大阪	3	55,000	ドーム3日
2026/12/05-06	EXILE 25th ANNIVERSARY BEST LIVE	京セラドーム大阪	2	55,000	ドーム2日
2026/12/10・12-13	Fujii Kaze Prema World Tour	京セラドーム大阪	3	55,000	ドーム3日
2027/01/19-20	Bruno Mars: The Romantic Tour	京セラドーム大阪	2	55,000	海外アーティスト・ドーム2日
2027/02/19-20	ENHYPEN WORLD TOUR	京セラドーム大阪	2	55,000	国際ファン需要・ドーム2日

次回更新で検証すること

- 観光庁の2026年8月・第2次速報で、7月に縮小した前年比の全国差と稼働率低下幅が、続けて改善するか確認する。
- 2024年比の全国差も縮まるかを確認し、万博年の比較基準だけによる改善と分ける。
- 来阪外客推計と関空旅客を7月以降へ更新し、宿泊量と同じ期間で中国市場・他市場の相殺と来訪・宿泊の差を検証する。
- ADR・RevPAR・予約残・キャンセル率・リードタイムを、業態・平日週末・イベント日で分け、販売可能客室数と重ねる。
- 航空券総額は発券時点、イベントは公式の最新日程を確認してから、個別施設の販売判断へ反映する。

前提と注意点

- 宿泊・客室稼働率は2026年7月の第2次速報（2026年9月30日公表）。2024・2025年は推移表の確定値を用い、月次は同じ7月、累計は各年1～7月で比較する。
- 2026年1月から層化基準が従業者数から客室数へ変更された。過年度比較・順位には調査設計変更の影響が含まれるため、参考比較として読む。
- 全国の延べ宿泊者数は、公開JSONの定義に合わせて47都道府県の公表値を合計した。丸めにより公式全国値と数十人泊程度異なる場合がある。大阪の7月宿泊量・施設タイプ別稼働率は公式表とも照合した。
- 来阪外客推計、JNT0訪日外客、関空旅客は既存の6月以前のスナップショット。来阪と宿泊の比較は1～6月同士に限定し、7月宿泊値と混在させない。
- 来阪外客数はJNT0訪日外客数に前年の大阪訪問率を乗じた推計で、直接観測値ではない。空港旅客・来訪者・延べ宿泊者は母集団や単位が異なり、差をそのまま転換率とみなせない。
- 宿泊供給は厚生労働省の旅館・ホテル営業許可ストック。簡易宿所・民泊、休業・販売停止を含む実売在庫とは定義が異なる。
- 万博、中国市場、航空運賃の個別寄与は観察データだけでは分離できない。前月差には季節性も含まれ、ADR・RevPARの悪化や回復は本統計から断定しない。
- 燃油サーチャージは本文に記した2026年4～8月の発券期間の記録で、現在の航空券総額ではない。円換算は税関公示相場による概算。
- イベントは2026年7月16日時点の公式・準公式ページ照合記録。今回再確認しておらず、利用前に日程変更・中止を公式ページで確認する。
- 公開データ取得時点は2026年10月5日、レポート更新日は日本時間2026年10月6日。公開資料のみを根拠とし、非公開商談・個別施設データは含めない。